

在宅医療・介護多職種連携協議会 研修部会 ～報告～

目 的

在宅医療に係る多職種連携の推進のための研修体制について検討する。

○顔の見える関係会議や在宅医療研修の内容について検討

○その他の研修(各団体主催研修会の連携・調整など)について検討

<令和3年度> 部会内容

第1回部会

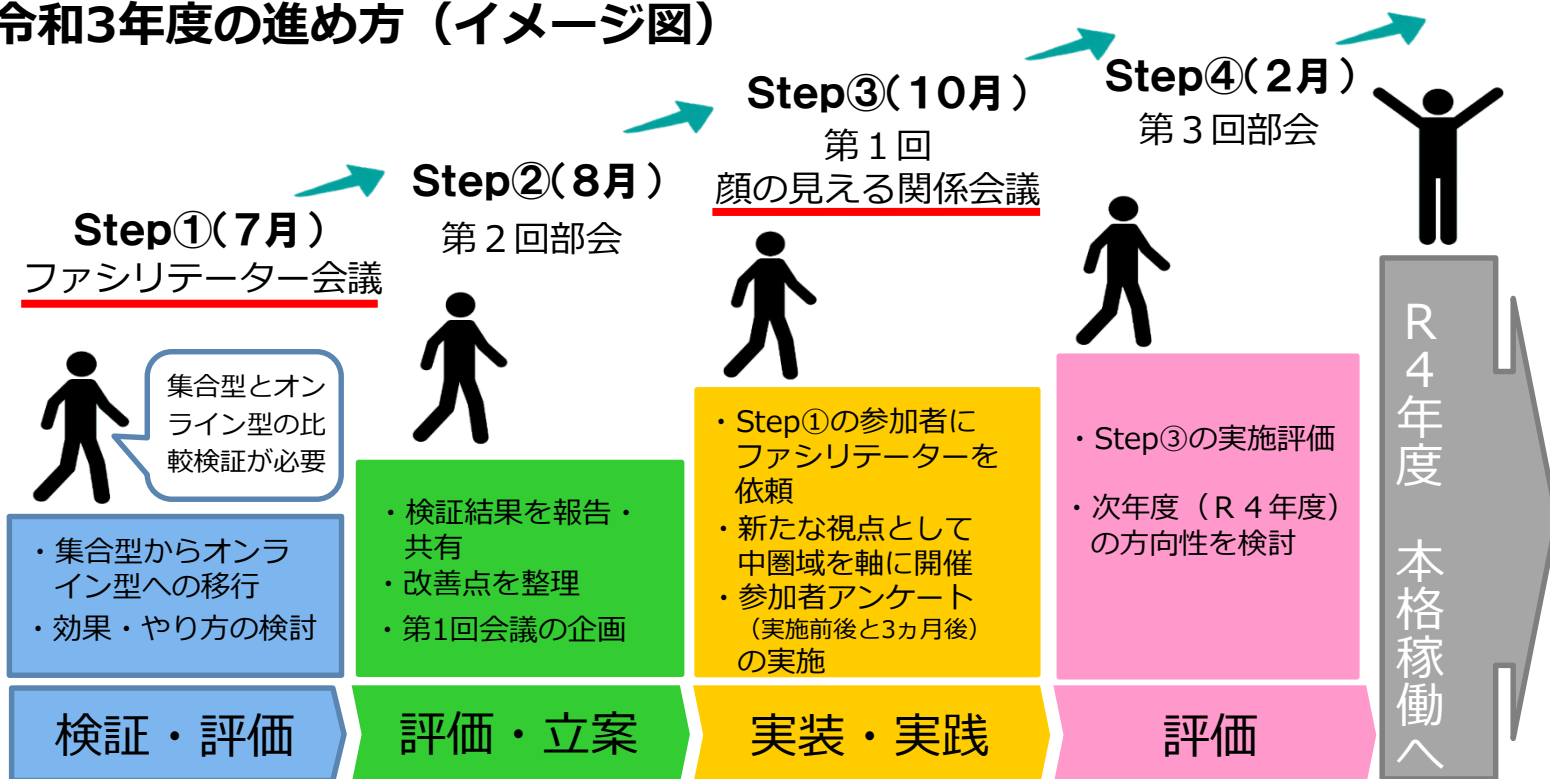
オンライン会議
(令和3年5月28日)

- 1 議事内容
 - ・顔の見える関係会議について
 - ・意思決定支援 支援者向け研修について
- 2 報告事項
 - ・令和3年度各職能団体の研修実施予定

<議事 I > 顔の見える関係会議

感染症対策を考慮し、「オンラインを活用」して試行的に実施し、「オンラインでも多職種連携につながるのか（効果）」の検証をおこなう

■令和3年度の進め方（イメージ図）



I ① オンライン会議を円滑に実施するための工夫

■グループワークで出されたご意見

	円滑に実施するために行なった方がよいこと（工夫点）
①オンライン会議の進行	<ul style="list-style-type: none">・参加者全員が事前にグラドルール（会議をスムーズに進めるためのルール）を共有・ファシリテーターの役割の明確化（タイムキープ、発言への促しなど）・資料や記録を定期的に画面共有し、話し合いの方向性を確認
②通信環境・操作	<ul style="list-style-type: none">・通信環境の基準を示し、申込時に事務局が通信環境を確認・機種別の操作手順書を事前に配布、会議前に操作確認の時間を設ける・通信環境が整わない方への配慮（ハイブリッド型や近くの事業所で一緒に参加）・不慣れな方が段階的に参加できるように配慮（オンラインで参加する事業所等にオブザーバー参加、次回のオンライン参加につなげる）・会議冒頭に自己紹介を取り入れて、通信状況や音声を確認
③発言のしやすさ・空気感の共有	<ul style="list-style-type: none">・完璧を目指さずに、顔の見える関係を作ることを目的として、気軽に参加できるように配慮する・参加者が発言内容を事前に準備できるように、早めに資料を配布する・面識があると話しやすいことから、メンバー構成に配慮・緊張感をほぐすために、アイスブレイクを入れる・話し合う項目を明確にする・参加者全員が話せる配慮・工夫（発言者を指名するなど）

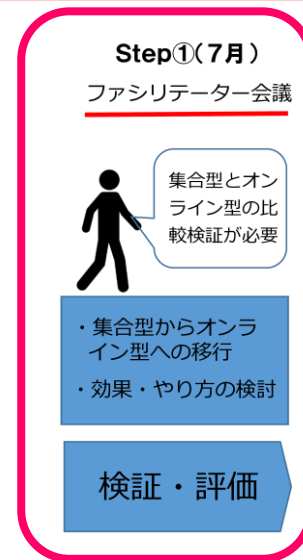


オンラインを活用した顔の見える関係会議開催に向けて、部会員の皆様よりいただいた工夫点を取り入れて、準備を進めていく



I ② ファシリテーター会議(7月)の具体的な内容

- テーマ：『**コロナ禍での多職種連携**』
- 参加者：**研修部会員+ファシリテーター経験者**
(理由：従来型の顔会議を熟知しているため、比較検証ができる。
10月顔会議のファシリテーターを依頼)
- 規模：**30名程度** (1グループ6名 × 5グループ)
(理由：運営側の通信環境・スキルの問題)



■グループワークで出されたご意見

	ファシリテーター会議の具体的な内容
①アイスブレイクの内容	<ul style="list-style-type: none">・オンラインでの経験談や失敗談・人となりがわかること、気軽に話せること (今はまっているもの、好きな食べ物、オンラインで買ったもの等)・事業所紹介 (画像等を画面共有した紹介コーナーなど)
②グループワークで話し合いたいこと	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍での各職種の苦労や工夫、感染対策・コロナ禍での入退院時連携で困ったこと・解決策
③その他・必要なこと	<ul style="list-style-type: none">・グループワーク方法の検討 (KJ法に代わる手法)・グループメンバーは、同じ圏域、近い事業所だと話しやすい



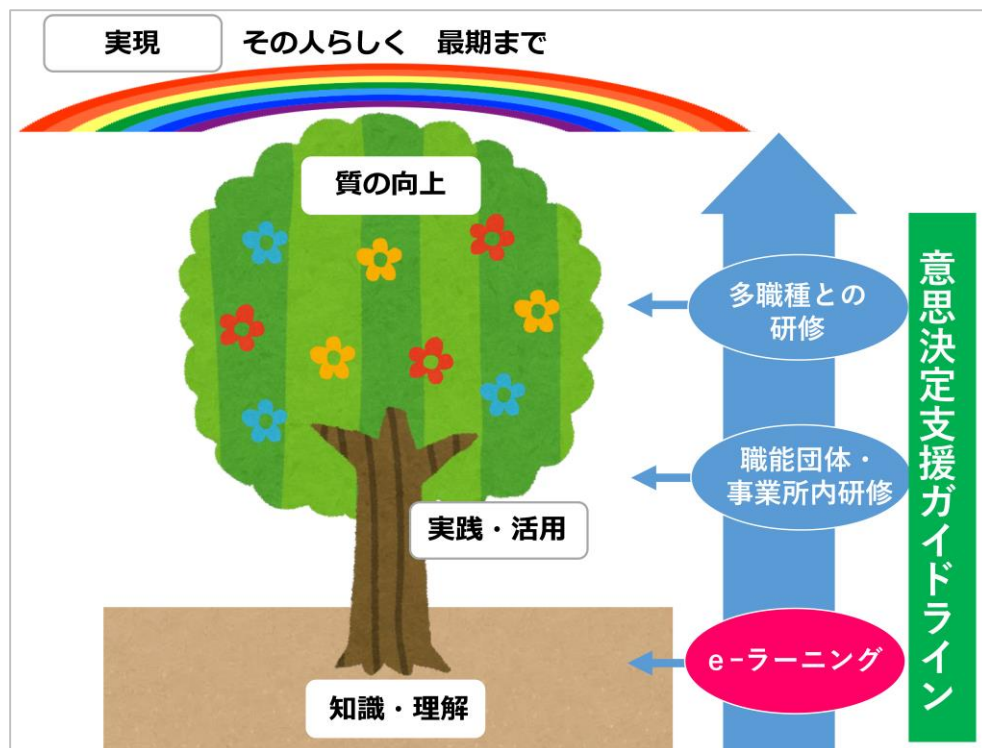
いただいたご意見をファシリテーター会議・顔会議に反映

< 議事 II > 意思決定支援 支援者向け研修

感染症収束の目途が立たない中、各事業所でも集合型の研修会を実施することが難しい現状があるため、**今年度はe-ラーニングを活用した研修会**を企画し、できることから取り組む

■ 意思決定支援研修会実施のポイント

- ・**e-ラーニング**を活用した研修会を整備
- ・意思決定支援ガイドラインを活用
- ・**職種や経験年数等に合わせて柔軟に対応できる内容**（施設ごと、職能団体ごと等）



◆ 意思決定支援の研修体系のイメージ図

知識・理解をeラーニングで得て、実践や活用につながる職能団体・事業所内研修や質の向上につながる多職種との研修を経て、結果をして、「その人らしく、最期まで」本人の意向を尊重したケアの実現につながる。それぞれの段階で、ガイドラインを活用する。

意思決定支援 eラーニング教材(案)の検討



より受講しやすいよう、コンテンツごとに分けて構成

構成内容

① **意義** 意思決定支援の必要性

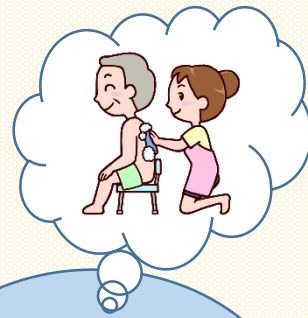
② **効果** 意思決定支援のプロセスで生まれる効果・利点

③ **実際** 事例の再現

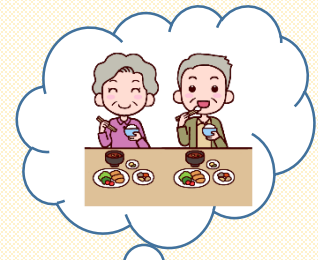
<事例のイメージ例>



お孫さんとの写真を見ながら、「孫の入学式を見るのはむずかしいかな」「孫の成長をずっとそばで見たいから、このまま家にいられないかな」とおっしゃっていました。



入浴介助のときに、「ずっと家にいたいけど、娘に下の世話までさせるのも悪いらね。施設を考えないといけないのかな。」とおっしゃっていました。



食事介助のときに、「少しでもいいから美味しいものを食べていられたらいいなあ。管に繋がれてまで生きていたくないわ。」とおっしゃっていました。

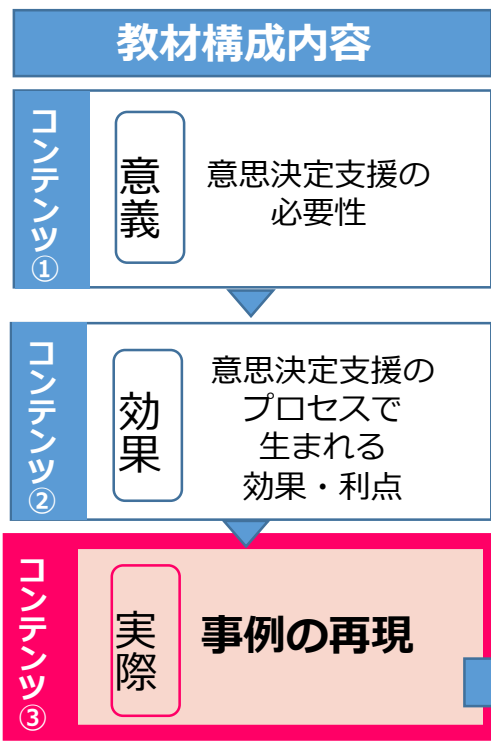


多職種チームによる共有

何気ない日々の生活の中で
発せられた本人の想いを
多職種で共有する大切さを
事例として紹介



■意思決定支援 eラーニング教材(案)の検討



■グループワークで出されたご意見

	コンテンツ③ 『事例の再現』で取り上げる場面
① 本当の気持ち（本音）を聞き出しやすい場面	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの人生の歩みを聞いていく途中 ・自宅に訪問した時 ・家族がいない時に1対1の対面で（家族に気兼ねなく話せる時） ・治療方針や療養場所が変わる時 ・支援者が変わる時 <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係の構築が前提 ・信頼関係が構築される前でも“全員に確認していること”と前置きして聞く ・他職種や家族から得た情報を切り口に話す ・職種や支援時間の長さによって、話してくれる内容が違うことを理解 ・日頃からアンテナを広げてキャッチできるようにする
② 聞き出した気持ちを多職種で共有する場面	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス担当者会議 ・カシワニネットの中 ・タイムリーに伝えるために電話を活用（ニュアンスを伝えやすい） ・報告書に記載して



いただいたご意見を踏まえて、
eラーニング教材（案）を作成し、次回部会で検討

今後の予定

<部会>

第2回研修部会：令和3年8月 5日（木）オンライン会議

第3回研修部会：令和4年2月17日（木）オンライン会議

<顔の見える関係会議>

ファシリテーター会議：令和3年 7月12日（月）オンライン会議

第1回顔の見える関係会議：令和3年10月14日（木）オンライン会議

